

知力之兜

中野
劇団

知力之兜

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

勇者

戦士

魔法使い

僧侶

とあるRPG世界の町のはずれ。勇者、戦士、魔法使い、僧侶が重い空気の中にいる。戦士は今この場に着いたばかりらしい。かなり重苦しい空気が漂う。

戦士

……何かあったのか？

魔法

所持金全部つき込んで、あの兜を買ったって……。

高価そうな兜を被っている勇者。

戦士 はあ？

僧侶 ちゃんと説明して下さい。

勇者 ……（自分に尋ねられてるとわかっていない）。

僧侶 勇者さんに尋ねてるんです。

勇者 これは知力ちりよくの兜と言って、冒険の上級者の間で愛用されていて……。

魔法 何故買ったのかを説明しろって言うてるの！

勇者 ……何故説明がいる？

魔法 質問に質問で返さないで。

僧侶 我々が貯めていたお金を勝手に使い込んだから聞いてるんです。

勇者 ……何故私に使われる前に、使わなかった？

魔法 ふざけてるの？

いちいち声が渋い勇者。

戦士 何なんだよ。知力の兜って。

勇者 装備をすると、知力が上がるんだ。

魔法 上がってないじゃない！

勇者 !? ……仲間への愛が感じられない。

僧侶 あなたですよ！ これまでみんなが血と汗を流して魔物と戦って

得た対価をどうしたらそんなバカな買い物に注ぎ込めるんですか。

勇者 何をもってバカな買い物と言うんだね君は。

魔法 だから質問に質問で返さないで！

僧侶 何故だろう。その兜を被って、殊更バカそうに見えるのは。

勇者 そうだな。あの時、私がこの知力の兜を被っていれば、こんな買

い物せずに済んだかもしれない。

魔法 何そのパラドックス？

勇者 確かに私にも半分責任はある。

僧侶 もう半分もです！

勇者 ——だが、思い切りの良さを評価してくれてもいいんじゃないか。

魔法 勇者の意味をはき違えてない？

僧侶 魔物でももう少し分別が……。

勇者 ……私は魔物以下か。

魔法 未満よ！

間。

勇者 ……毎日、四面楚歌ですよ。

戦士 で、おまえの武器はどうしたんだ。

勇者 「勇氣」のことか？

戦士 剣だよ！ 銅の剣！つるぎ 何で持っていないんだ！

僧侶 処分したそうです。

戦士

何で!?

勇者

……足が出た。

戦士

ハアア? これからどうやって戦うつもりだよ!

勇者

そこまで考えないと駄目なのか。

魔法

ホントにふざけてるでしょ!

戦士

兜を買うくらいなら、何で剣やムチを買わなかったんだ!

勇者

剣があっても、命を取られたら仕舞いではないか!

僧侶

ならば何故盾や鎧を買わなかったんですか!

勇者

盾とか鎧があっても頭を攻撃されたら終わりじゃないか! 頭を

無防備にするわけにはいかない!

魔法

そこまでして守る価値のあるものを備えているの?

勇者

!?! どうしてそんな言い方しかできないんだ。私が何をした!

戦士

勝手に兜を買っただろ!

勇者

その話は終わったではないか!

僧侶

真っ最中です!

勇者

(ボソ) 諄い。

僧侶

今、何と!?

勇者

ん?

魔法

今すぐ売って来なさいよ! その「兜」!

勇者

もう買ってしまったのだから。

魔法

買ってしまったのだからじゃないわよ! 売って来なさいって!

戦士

その金で全員の武器と、もう少し丈夫な服を買おう。

勇者

こんなに夜も更けてるんだ。店なぞ開いてるわけないだろ。

魔法

なら開けてもらいなさい!

勇者

もう今夜は遅い。宿屋に行こう。

魔法

だから、泊まる金もないって言ってるの!

勇者

フフフ。君達、気づいてないみたいだな。……殆どの宿屋はな、

金を払わなくても、勝手に部屋に入れるんだ。

ちゃんと金払って泊まらねえと意味ねえんだよ。

勇者

何故!?

戦士

そういうシステムなんだよ！ 金払わないと体力が回復しないんだよ！

勇者

……。

戦士

どうする？ 今晚。

魔法

一人で外に行って何匹か相手をすれば宿代くらい稼げるでしょ。

勇者

(真面目に) では、誰がその役を？

魔法

あんたよ！

勇者

ばかな！

僧侶

もどかしいっ！

勇者

武器がないんだぞ。

戦士

おまえが売ったからだろ！

魔法

素手で戦えばいいじゃない。

勇者

そんなのは勇気とは呼ばない。君こそ魔法使いならこんな時は率先して行くべきではないのか。…バカか！ 最近の魔法使って

…。

魔法、勇者をビンタ。

勇者 (ボン) 1のダメージ。そう率先したか…。

魔法、勇者を蹴り続ける。戦士も僧侶も参戦。

勇者 痛い。ちよ、やめ、ちよ。ちよっと。ごめ、うわああああ！

勇者、全方向型反撃。兜を外す。

勇者 何だこれは！ 呪いの兜か!? 友情パワーを引き裂く呪いが出て
るぞ。この兜から！

魔法 あんたからよ！

勇者 そういう不用意な発言が、イジメ問題の温床になってると思います。

僧侶 どうしてこんな人が勇者なんだ！

勇者 こんなに価値観がバラバラで魔王が倒せるか、否！

魔法 あんたひとりずれてるの！ 私達三人は大体揃ってるから。

勇者 数の論理か。

戦士 貯めるのにどれだけかかったかわかってんのか！ もう何も買え

ないんだぞ！ どうしてそんなもの買ったんだ！

勇者 約束を果たすためだ！

魔法 !?

重々しいBGM。シリアスな照明。

勇者 ……私の父は、剣士だった。魔物退治なりわいを生業としてた。私は幼い頃体が弱く、頻繁に医者にかかっていた。

そのため、家は貧しく、父は私の薬代のために、より危険な魔物を相手にしなければならなかった。物欲のない父だったが、ある

町の防具屋に立ち寄った時、ずっとその知力の兜を欲しそうに眺

めていた。その時、父は突然、その兜を手に取り、目を凝らして見ると、

三人
勇者

めてたのを覚えている。私が生まれてすぐに亡くなった母親が、生前よく言っていたそうだ。「知力の兜を被る父の勇姿をいつか見られるのを楽しみにしてる」と。……ある冬、私の体の具合が悪化し、王家御用達の医者に診てもらったため、巨額の報酬を謳った魔物討伐依頼のビラを手に、父は山へ入って行った。三週間、戻って来なかった！ 漸く^{ようやく}国王軍が重い腰を上げて、魔物狩りを行い、それで父は、遅すぎる下山をした！ 父は、魔物に頭を嚙られ、鼻から上がなかった！

……。

それからずっと孤独だった。そして、国王軍が倒したと思われたあの魔物が生きていることを知って、私は旅を始めた。しかし、最近になって旅の仲間ができ……。毎日いろんなことがあるうちに、大切なことが薄らいでしまっていた。だが今朝！防具屋でこの兜を見つけたとき、私は漸く^{ようやく}取り戻したのだ。変わり果てた父と再会した時に立てた誓いを！ たとえどんな咎めを受けようと、

何としてでも父が欲した兜を手に入れ、あの魔物を倒し、父と母の墓前にその亡骸を捧げると！ って、君達にしても無駄かあ！
 こんな作り話いいい！！

間。

戦士 ……作り話じゃなあ……。

本気にして目が潤んでいる魔法使い。

魔法 え？ 嘘？

勇者 ……うん。……すまない。

魔法 ……。

勇者 ……この兜を被ってたら、口からスラスラと出鱈目が………出た。

しーん。戦士、立ち上がり、勇者の肩を叩く。

戦士 ……いっぺん嚙られて来いや。

戦士、去る。

魔法 ……死んで治るバカもあるかも知れないから。

魔法使い、去る。勇者も去りかける。

僧侶 ……私の父も。

足を止め、振り返る勇者。

勇者 ……バカだったのか？

僧侶 王家に仕える医者でした……。

勇者 ?

僧侶　　今の話と同じような子供を助けたことがあるそうです。その子供の手の甲には風の紋章が刻まれてたそうです。

勇者の手の甲には紋章。(前の演目で油性マジックで書かれた落書き)

勇者　　……。

僧侶　　……その魔物、ひとりで倒しに行くつもりですか？

勇者　　みんなを巻き込むわけにいかない……。さ、別れも済ませたし。

勇者、歩いて行く。

僧侶　　勇者さん？

勇者　　……元気で。じゃ。

去る勇者。見送る僧侶。終わり。